

令和8年度

小松島南中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 自主学習ノートを活用し、自ら考え主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- ② 授業マナーの向上を図り、落ち着いた学べる環境を整え、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をめざす。

校長

沖 建治

学力向上推進員

徳村 茜

【各校の取組状況の把握について】

授業参観や校内研修等、様々な機会を通じて各クラス・学年・教科の取組状況を把握し、実践に関する情報交換を推進する。

◎ 次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 学習習慣、生活習慣が身に付いている生徒が多い。 ● 学力の二極化傾向が見られる。	・ 授業に意欲的に取り組み、ICTを通じて基礎・基本を定着させる。 ・ 自分の習熟度に合わせた課題を期限内に提出できる。	・ 1分前着席、授業準備の徹底。 ・ 一人一台端末を活用し、一人ひとりに応じた課題提示と丁寧な点検を行う。 ・ 授業参観や研修等の機会を捉え、取組状況の把握と情報交換を行う。			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 授業や行事での発表・表現活動に意欲的な生徒が多い。 ● 全国学力学習状況調査や、学カステップアップテストの結果分析から、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、発信したり交流したりする力に課題がある。	・ 各教科や活動において、一人一台端末の学習支援アプリの共有機能を活用し、自分の考えを表現したり友達と伝え合ったりすることができる。 ・ 必要な情報を整理し、目的に応じてまとめたり発表したりすることができる。	・ 各教科の特性に応じ、スピーチ、レポート、鑑賞など、多様な表現活動を取り入れる。 ・ 生徒会や行事等で、生徒が主体となる発表の場面を多く設定する。 ・ 職員会議や授業参観、研修等の様々な機会を捉え、クラス・学年・教科ごとのICT活用や表現指導の状況を把握し、効果的な実践について情報交換を行う。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ ほとんどの生徒が、落ち着いた学習に取り組む、新しい課題にも興味を持って取り組んでいる。 ● 2割程度の生徒が宿題や自主学習ノート等、家庭学習が十分できていない。将来への展望をもち、主体的な家庭学習の習慣化が課題である。	・ 具体的な目標をもち、テストや受験に向け計画的に学習に取り組むことができる。 ・ 一人一台端末の学習支援アプリや、自主学習ノートを自ら進んで活用し、授業の予習・復習を主体的に行うことができる。	・ 学習充実期間を設定し、学習時間記録表を作成・活用して、期間中の支援を行う。 ・ 一人一台端末の学習支援アプリ、自主学習ノートの点検を通じ、一人ひとりに応じた学習方法のアドバイスや、模範となるノート・活用例の紹介を行う。 ・ 職員会議や授業参観、研修等の様々な機会を捉え、各クラス・学年・教科での家庭学習の充実やICT活用状況を把握し、効果的な実践について情報交換を行う。			